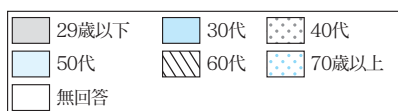
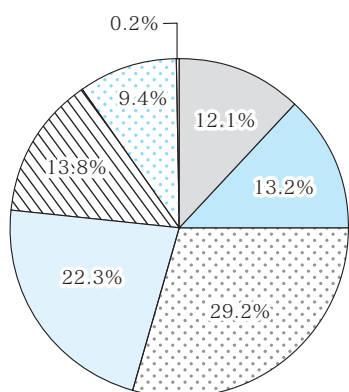




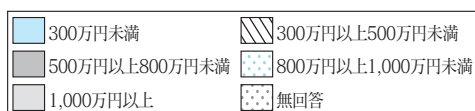
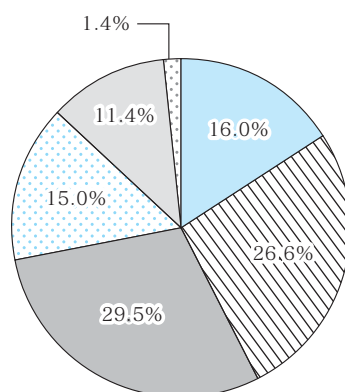
## 第36回 秋田県消費動向調査

- 1 「昨年と比較した暮らし向き」は、「良くなった」(7.5%)が昨年調査(2019年10月実施)から0.2ポイント低下した一方で、「悪くなった」(25.4%)は0.1ポイント上昇し、僅かながらも悪化した。
- 2 「昨年と比較した世帯収入の増減」は、「増加した」(16.3%)は昨年調査から9.5ポイント低下し、他方、「減少した」(29.2%)は8.8ポイント上昇し、世帯収入は2年ぶりに悪化した。
- 3 「来年の収入(見込み)」は、「増加する」(7.1%)と予想する世帯割合が昨年調査を8.7ポイント下回った反面、「減少する」(29.0%)は10.0ポイント上回り、大幅に悪化した。
- 4 「1か月あたりの生活費」は183千円となり、昨年調査(171千円)から12千円増加した。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため在宅時間が増え、「食料費」や「水道光熱費」など生活に欠くことのできない費目を中心に支出が増加した。
- 5 新型コロナウイルス感染症緊急対策の一つである特別定額給付金は、回答者全員が受け取っており、主な使い道としては、回答割合の高い順から、「生活費」(57.3%)、「生活必需品以外の物やサービス」(37.5%)、「預金」(23.6%)となった。

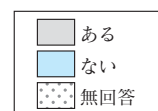
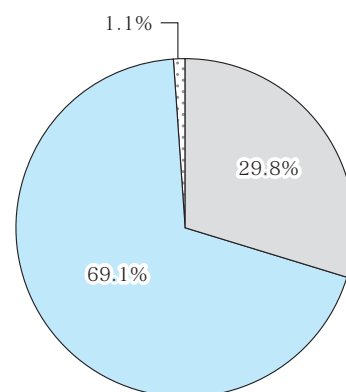
回答者の年代別内訳



回答者の世帯年収別内訳



回答者の住宅ローンの有無別内訳



### 《調査要領》

調査対象：県内世帯1,375世帯

回答数：638世帯(回答率46.4%)

調査方法：秋田銀行の本支店を通じて依頼

調査時期：2020年10月

$$BSI : \frac{\text{「増加した」または「良くなる」} - \text{「減少した」または「悪くなる」}}{\text{回答数}} \times 100$$

(注) 集計結果は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある

1 暮らし向き

(1) 昨年と比較した暮らし向き  
—僅かながらも悪化—

「良くなった」と回答した世帯割合(7.5%)は、昨年調査(7.7%)を0.2ポイント下回り、2年連続で低下した(図表1)。

「悪くなった」(25.4%)は、昨年調査(25.3%)を0.1ポイント上回った。

「変わらない」(67.1%)は、昨年調査(67.0%)を0.1ポイント上回った。

昨年と比較した暮らし向きは、僅かながらも悪化した。

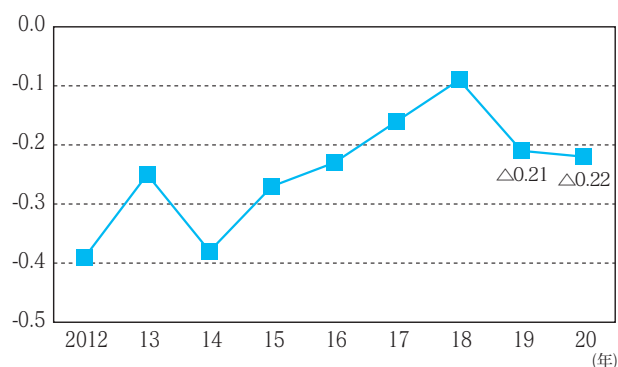
暮らし向き得点は $\Delta 0.22$ と、昨年調査( $\Delta 0.21$ )を0.01ポイント下回り、2年連続で低下した(図表2)。

年代別では、「良くなった」は29歳以下の年代(15.6%)でのみ二桁となり、70歳以上で

は回答がみられなかった(図表3)。

昨年調査との比較では、29歳以下の年代でのみ「良くなった」が上昇した。他方、「悪くなった」は40代と60代で上昇し、「変わらない」は40代を除くすべての年代で上昇した。

図表2 暮らし向き得点



(注) 1 暮らし向き得点については5段階評価をした。「良くなった」2点、「やや良くなった」1点、「変わらない」0点、「やや悪くなった」 $\Delta 1$ 点、「悪くなった」 $\Delta 2$ 点とし、回答者数で加重平均した値である。  
2 無効回答分は省略

図表1 昨年と比較した暮らし向き

| 年          | 良くなった | 変わらない | 悪くなった | BSI           |
|------------|-------|-------|-------|---------------|
| 2015年      | 8.1%  | 62.9% | 29.0% | $\Delta 20.9$ |
| 2016年      | 8.0   | 65.3  | 26.7  | $\Delta 18.7$ |
| 2017年      | 9.5   | 67.6  | 22.9  | $\Delta 13.4$ |
| 2018年      | 12.4  | 67.0  | 20.6  | $\Delta 8.2$  |
| 2019年      | 7.7   | 67.0  | 25.3  | $\Delta 17.6$ |
| 2020年      | 7.5   | 67.1  | 25.4  | $\Delta 17.9$ |
| 【住宅ローン有無別】 |       |       |       |               |
| ある         | 6.8   | 64.7  | 28.4  | $\Delta 21.6$ |
| ない         | 7.7   | 68.0  | 24.3  | $\Delta 16.6$ |

図表3 <年代別> 昨年と比較した暮らし向き

| 年代    | 年     | 良くなった | 変わらない | 悪くなった | BSI           |
|-------|-------|-------|-------|-------|---------------|
| 29歳以下 | 2019年 | 8.0%  | 70.1% | 21.8% | $\Delta 13.8$ |
|       | 2020年 | 15.6  | 71.4  | 13.0  | 2.6           |
| 30代   | 2019年 | 10.0  | 71.0  | 19.0  | $\Delta 9.0$  |
|       | 2020年 | 8.3   | 73.8  | 17.9  | $\Delta 9.6$  |
| 40代   | 2019年 | 8.7   | 65.8  | 25.5  | $\Delta 16.8$ |
|       | 2020年 | 6.5   | 61.3  | 32.3  | $\Delta 25.8$ |
| 50代   | 2019年 | 9.2   | 61.8  | 28.9  | $\Delta 19.7$ |
|       | 2020年 | 9.2   | 64.1  | 26.8  | $\Delta 17.6$ |
| 60代   | 2019年 | 5.0   | 61.3  | 33.8  | $\Delta 28.8$ |
|       | 2020年 | 4.5   | 61.4  | 34.1  | $\Delta 29.6$ |
| 70歳以上 | 2019年 | 0.0   | 80.7  | 19.3  | $\Delta 19.3$ |
|       | 2020年 | 0.0   | 85.0  | 15.0  | $\Delta 15.0$ |

(2) 今後1年間の暮らし向き

—「悪化する」世帯割合、上昇が続く—

「良くなる」と回答した世帯割合（8.3%）は、昨年調査（7.4%）から0.9ポイント上回り、2年ぶりに上昇に転じた（図表4）。

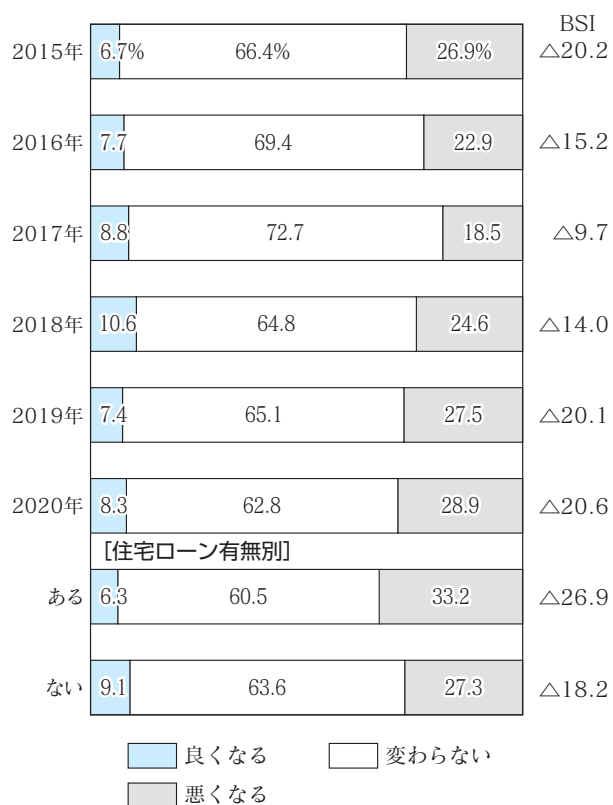
一方で、「悪くなる」と予想する世帯割合（28.9%）は、昨年調査（27.5%）を1.4ポイント上回り、3年連続で上昇した。

「変わらない」（62.8%）は、昨年調査（65.1%）から2.3ポイント低下した。

今後1年間の暮らし向きは、改善予想世帯が上昇に転じた一方で、悪化予想世帯は上昇が続き、全体としては悪化の見通しが強まっている。

住宅ローン有無別では、いずれも「変わらない」とする世帯割合が6割を超え最も高いが、「悪くなる」は、ローンのある世帯（33.2%）が、ローンのない世帯（27.3%）を上回った。

図表4 今後1年間の暮らし向き



2 収入

(1) 昨年と比較した世帯収入の増減

—悪化に転じる—

「増加した」を選択した世帯割合（16.3%）は、昨年調査（25.8%）から9.5ポイント低下した（図表5）。

「減少した」（29.2%）は、昨年調査（20.4%）を8.8ポイント上回った。

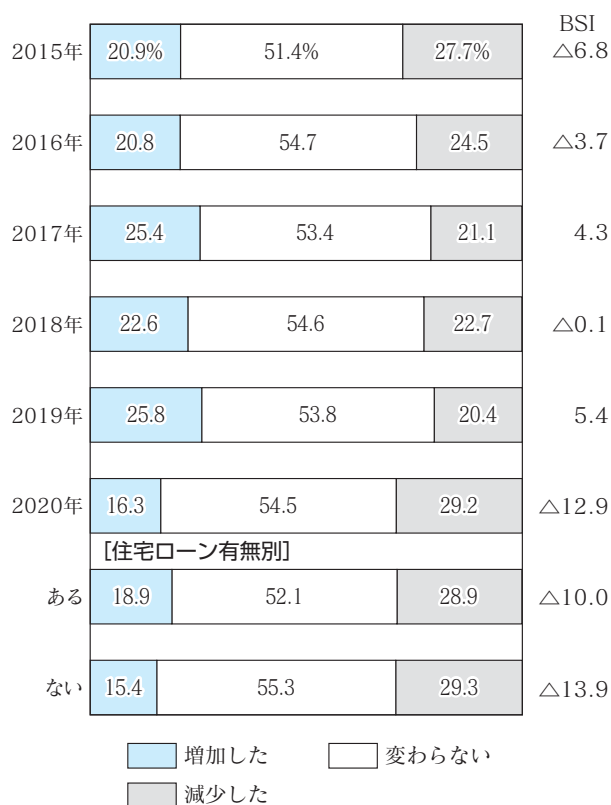
「変わらない」は54.5%で、昨年調査（53.8%）から0.7ポイント上昇した。

世帯収入は、昨年調査では改善に向かったものの、本年調査で再び悪化した。

収入得点は△0.19と、1997年以来22年ぶりにプラスとなった昨年調査（0.05）を0.24ポイント下回り、再びマイナスとなった（図表6）。

年代別では、30代で「増加した」が3割を超えた一方、50代と60代では「減少した」が3

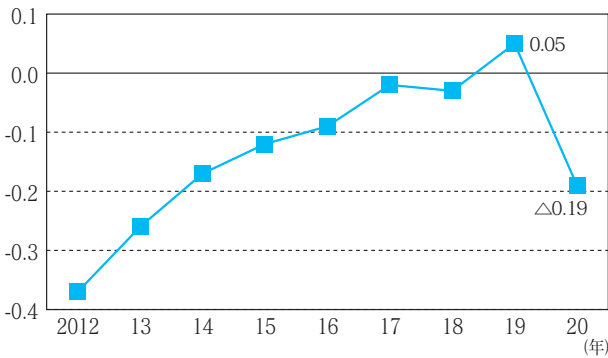
図表5 昨年と比較した収入の増減



割を超えた（図表7）。

昨年調査と比較すると、「増加した」とする世帯割合は、60代以下のすべての年代で低下した。他方、「減少した」は、60代を除くすべての年代で上昇し、特に40代で14.2ポイント、50代で10.8ポイントの大幅な上昇となった。

図表6 収入得点



(注) 1 収入得点については5段階評価をした。「増加した」2点、「やや増加した」1点、「変わらない」0点、「やや減少した」△1点、「減少した」△2点とし、回答者数で加重平均した値である。  
2 無効回答は省略

図表7 〈年代別〉昨年と比較した収入の増減

| 年代    | 年     | 増加した  | 変わらない | 減少した  | BSI   |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 29歳以下 | 2019年 | 44.8% | 40.2% | 14.9% | 29.9  |
|       | 2020年 | 27.3  | 53.2  | 19.5  | 7.8   |
| 30代   | 2019年 | 44.0  | 46.0  | 10.0  | 34.0  |
|       | 2020年 | 31.0  | 50.0  | 19.0  | 12.0  |
| 40代   | 2019年 | 23.0  | 61.7  | 15.4  | 7.6   |
|       | 2020年 | 16.1  | 54.3  | 29.6  | △13.5 |
| 50代   | 2019年 | 23.0  | 53.3  | 23.7  | △0.7  |
|       | 2020年 | 11.3  | 54.2  | 34.5  | △23.2 |
| 60代   | 2019年 | 11.3  | 45.0  | 43.8  | △32.5 |
|       | 2020年 | 9.1   | 52.3  | 38.6  | △29.5 |
| 70歳以上 | 2019年 | 3.5   | 73.7  | 22.8  | △19.3 |
|       | 2020年 | 5.0   | 66.7  | 28.3  | △23.3 |

■ 増加した    □ 変わらない  
■ 減少した

(2) 来年の収入（見込み）の増減  
—「減少する」世帯割合、大幅上昇—

「増加する」と予想する世帯割合（7.1%）は、昨年調査（15.8%）を8.7ポイント下回った（図表8）。

「減少する」と回答した世帯割合（29.0%）は、昨年調査（19.0%）から10.0ポイント上昇した。

「変わらない」（63.9%）は、昨年調査（65.2%）を1.3ポイント下回った。

来年の収入（見込み）は、昨年調査で改善に向かったものの、本年調査では減少を予想する世帯割合が大幅に上昇し、悪化の見通しが強まった。

住宅ローン有無別では、「増加する」、「減少する」いずれも、ローンのある世帯が、ない世帯を上回った。

図表8 来年の収入（見込み）の増減

| 年          | 増加する  | 変わらない | 減少する  | BSI   |
|------------|-------|-------|-------|-------|
| 2015年      | 10.0% | 66.3% | 23.8% | △13.8 |
| 2016年      | 12.8  | 67.1  | 20.0  | △7.2  |
| 2017年      | 14.3  | 67.5  | 18.1  | △3.8  |
| 2018年      | 15.6  | 63.1  | 21.2  | △5.6  |
| 2019年      | 15.8  | 65.2  | 19.0  | △3.2  |
| 2020年      | 7.1   | 63.9  | 29.0  | △21.9 |
| 【住宅ローン有無別】 |       |       |       |       |
| ある         | 7.4   | 63.2  | 29.5  | △22.1 |
| ない         | 7.0   | 64.1  | 28.9  | △21.9 |

■ 増加する    □ 変わらない  
■ 減少する

### 3 生活費

#### (1) 1か月当たりの生活費

—平均生活費は12千円増の183千円—

昨年調査との比較では、「20～25万円」(17.4%)、「25～30万円」(11.3%)、30万円以上」(8.2%)の割合が上昇し、「20万円以上」の割合の合計(36.9%)も4.7ポイント上昇した(図表9)。

前述の「2(1)昨年と比較した世帯収入の増減」で世帯収入が悪化した反面、支出は増加に転じた。

住宅ローン有無別では、いずれも「10～15万円」の割合が最も高くなったが、ローンのない世帯は30.5%となり、ローンのある世帯(24.0%)を6.5ポイント上回った。

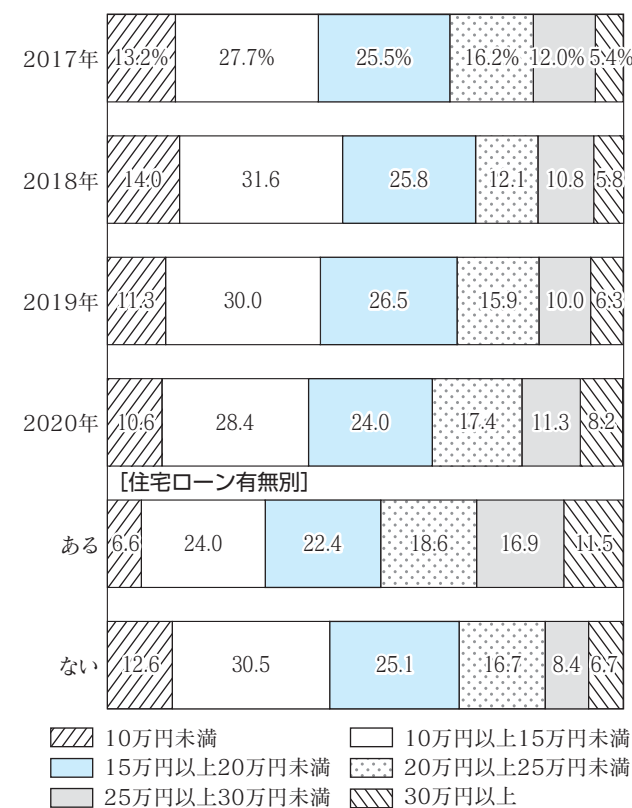
1か月当たりの平均生活費は183千円となった(図表10)。2018年調査と昨年調査では、本

項目を設けた1992年以降の最少額(171千円)となったが、本年調査で12千円増加した。

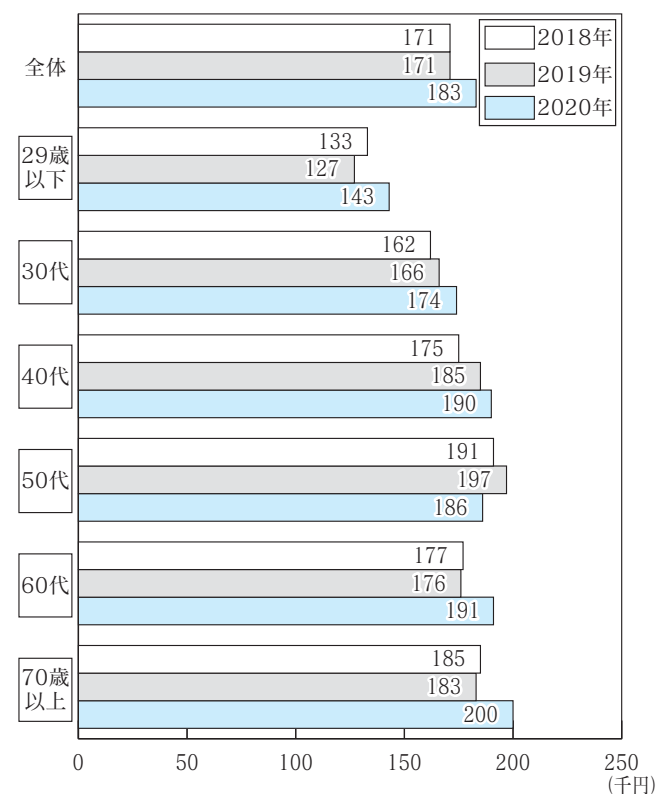
年代別では、70歳以上(200千円)が最も高く、次いで、60代(191千円)、40代(190千円)、50代(186千円)、30代(174千円)、29歳以下(143千円)となった。

昨年調査との比較では、50代を除くすべての年代で増加し、なかでも70歳以上で17千円増、29歳以下で16千円増、60代で15千円増と増加幅が大きい。世帯年収の低い若年層と、年金受給者が多い高齢層で支出が大幅に増加していることから、生活に欠くことのできない費目で支出を増やさざるを得なかったものと推測される。他方、50代では11千円の減少となった。この年代は、「2(1)昨年と比較した世帯収入の増減」にみられるとおり、世帯収入が大きく悪化したため、支出を一段と切り詰めたようだ。

図表9 1か月当たりの生活費



図表10 〈年代別〉1か月当たりの平均生活費



(2) 昨年と比較して支出が

「増えた」費目・「減った」費目

—新型コロナの感染拡大防止による影響大—  
昨年よりも支出が増えた費目

「食料費」(46.5%)に回答が集中し、次いで、「水道光熱費」(25.3%)、「保健医療費」(19.9%)となった(図表11)。

昨年調査と比べて、「食料費」は27.6ポイント上昇、「水道光熱費」は15.1ポイント上昇となり、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため家で過ごす時間が増えたことから、支出が大幅に増加した。「食料費」は、特に、30代(58.3%)と40代(49.5%)で回答割合が高く、外出自粛に加え、臨時休校、オンライン授業やテレワークの導入により、家族が家庭で食事を摂る頻度が高まったものと推測される。加えて、自宅での飲酒機会が増加したことも支出増に影響したようだ。また、「保健医療費」は9.3ポイント上昇し、マスクや消毒液の購入が支出の増加に繋がったものと考えられる。なかでも、70歳以上(50.0%)と60代(41.2%)で割合が高く、高齢層は感染予防対策に特に力を入れているようだ。

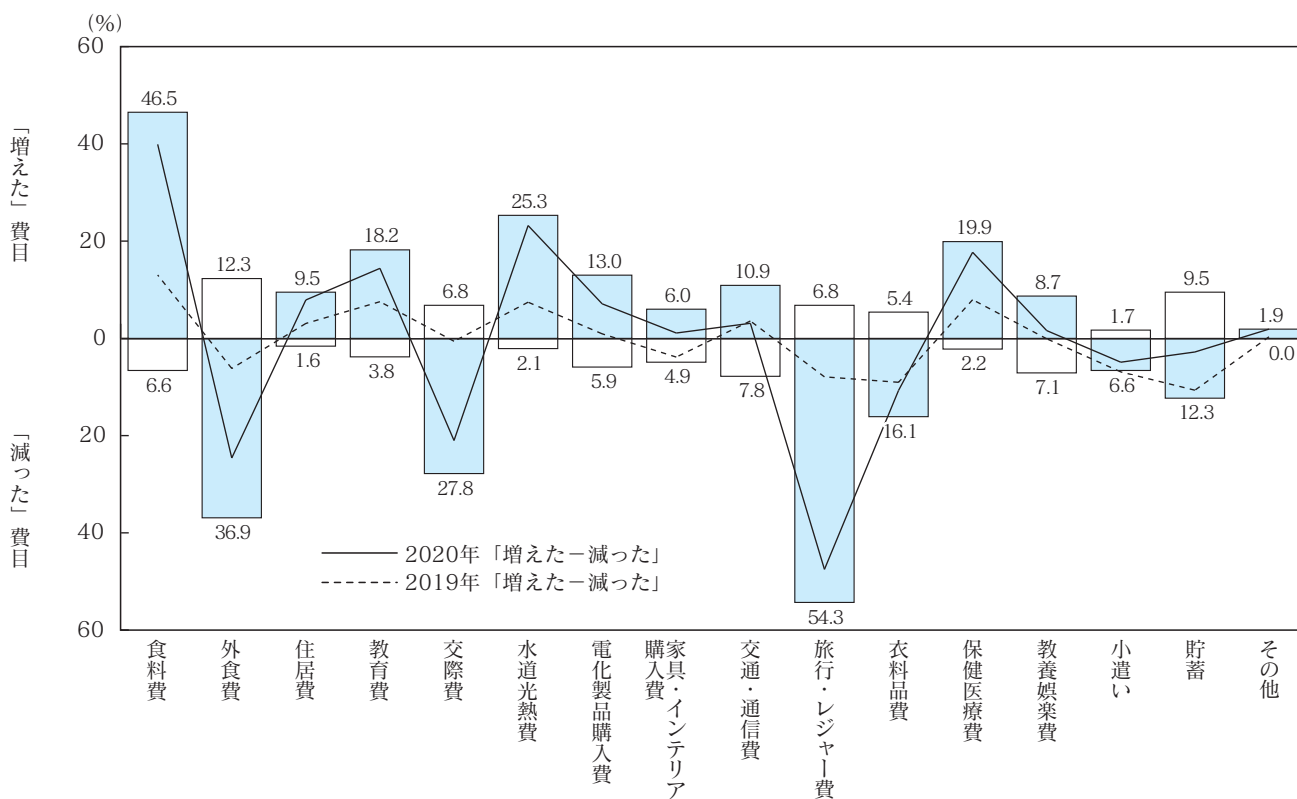
昨年よりも支出が増えた費目

昨年よりも支出が減少した費目

「減った」割合が高い順に、「旅行・レジャー費」(54.3%)、「外食費」(36.9%)、「交際費」(27.8%)となり、外出自粛やイベントの中止などにより支出が減少した費目が並んだ。

昨年調査と比べて、「旅行・レジャー費」、「外食費」、「交際費」の支出が減少したとする回答割合は、各々20ポイント以上も高まった。また、外出機会の減少により「衣料品費」(16.1%)への支出も減少した。

図表11 昨年と比較して支出が「増えた」費目・「減った」費目(複数回答)





### (3) 今後の家計支出

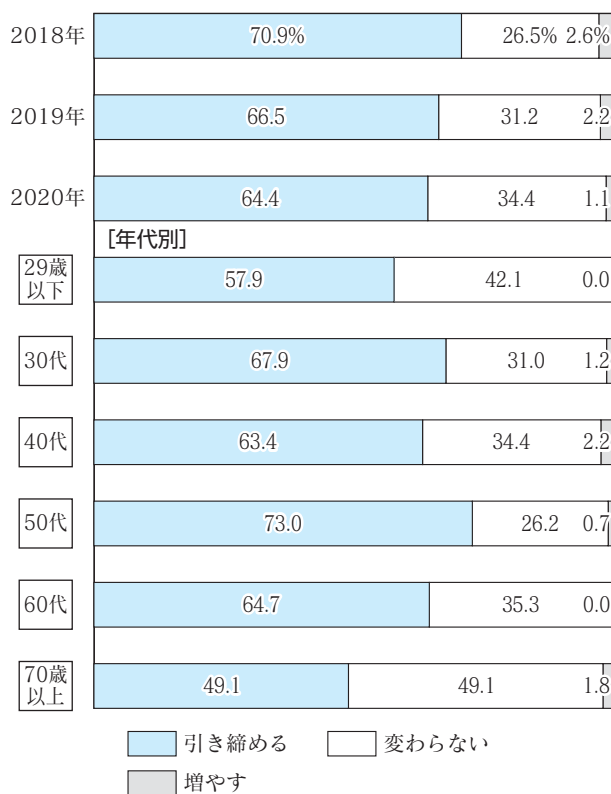
#### —支出は緩和傾向が続く—

「引き締める」と回答した世帯割合は64.4%となり、昨年調査（66.5%）を2.1ポイント下回り、2年連続で低下した(図表12)。新型コロナウイルスの感染収束が見通せないなか、来年も食料費や水道光熱費といった生活費の増加が予想され、支出を引き締めることは難しいと考えているようだ。

一方で、昨年調査と比較すると、「増やす」（1.1%）は1.1ポイント低下し、「変わらない」（34.4%）は3.2ポイント上昇した。「1（2）今後1年間の暮らし向き」では悪化予想世帯の割合が上昇しており、生活防衛意識は引き続き高いものと推測される。

年代別では、60代以下の年代で「引き締める」が5割を超えた。50代（73.0%）で最も高く、

図表12 今後の家計支出

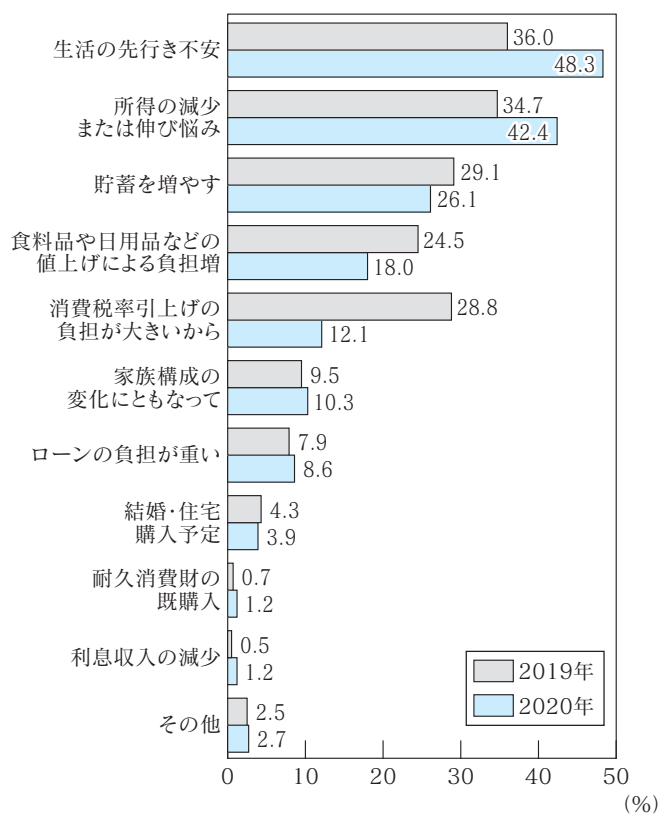


次いで、30代（67.9%）、60代（64.7%）、40代（63.4%）、29歳以下（57.9%）となった。70歳以上では、「引き締める」と「変わらない」がともに49.1%となった。また、29歳以下と60代では、「増やす」とする回答はみられなかった。

家計支出を引き締める理由としては、「生活の先行き不安」（48.3%）と「所得の減少または伸び悩み」（42.4%）が、ともに4割を超えた（図表13）。現状では先々の見通しを立てることが難しいため、将来への不安が高まっているほか、所得環境の悪化を懸念している様子が窺える。

昨年調査と比較すると、「消費税率引上げの負担が大きいから」（12.1%）は16.7ポイント低下した。消費税率の引上げから1年が経ち、負担感は以前よりも薄れている。

図表13 家計支出を引き締める理由（複数回答）



#### 4 耐久消費財

##### 過去1年間に購入した耐久消費財

##### —購入世帯の割合は3年ぶりに低下—

過去1年間に耐久消費財を購入した世帯割合は62.7%と、昨年調査(63.9%)を1.2ポイント下回り、3年ぶりに低下した。世帯収入が減少したほか、昨年調査でみられた消費税率引上げ前の駆け込み需要の反動もあり、購入割合が低下したものと考えられる。

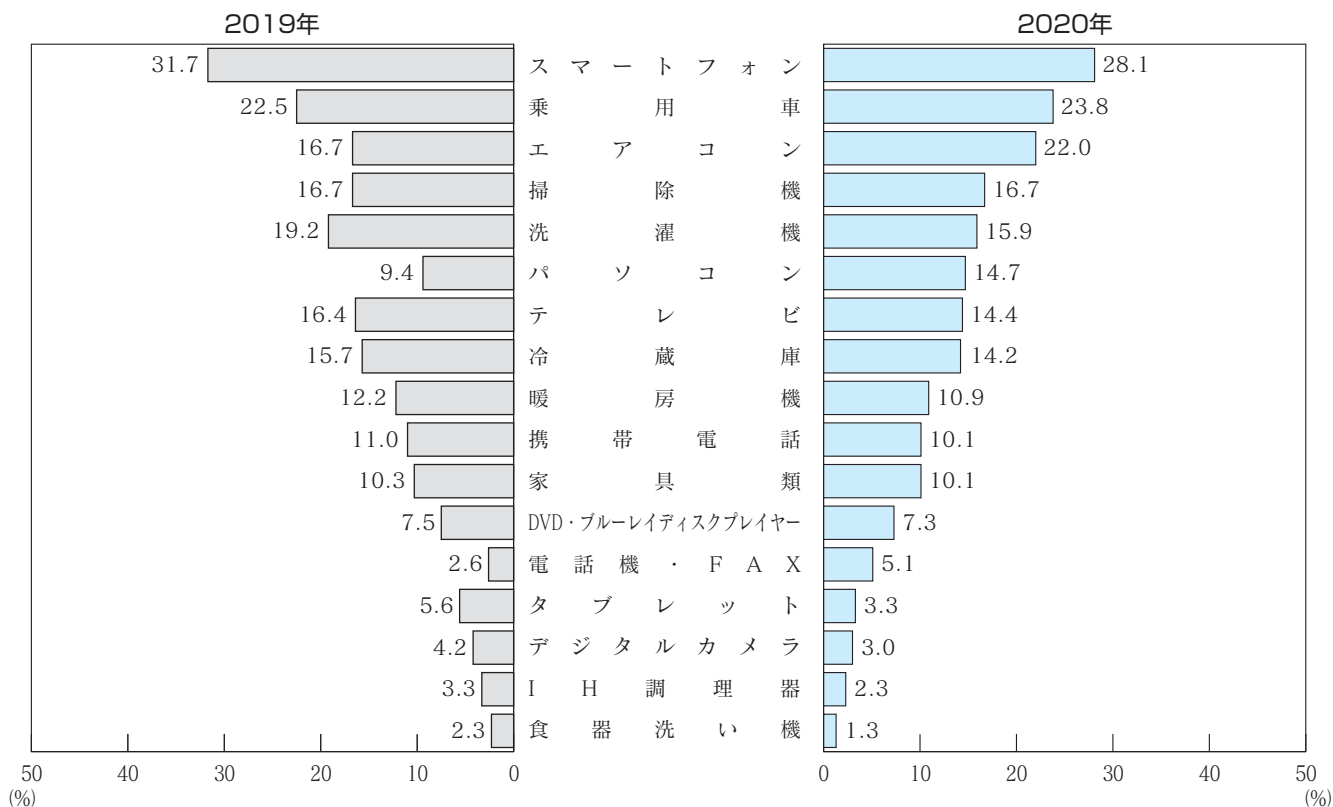
年代別購入割合では、50代(70.9%)が最も高くなった。次いで、40代(66.7%)と30代(60.7%)が6割台で、60代(55.3%)、70歳以上の年代(54.4%)、29歳以下(53.9%)は5割台となった。

購入した耐久消費財としては、「スマートフォン」(28.1%)の購入割合が最も高くなったものの、昨年調査(31.7%)を3.6ポイント下

回った(図表14)。2019年10月に電気通信事業法が改正となり端末の大幅な値引きが規制されたこと、緊急事態宣言の発令にともない販売店が営業時間を短縮したことなどの影響を受けたものと推測される。年代別では、すべての年代で2割を超え、29歳以下(36.6%)が最も高くなった。また、「乗用車」(23.8%)は、昨年調査(22.5%)から1.3ポイント上昇し、30代(31.7%)の購入割合が最も高くなった。

昨年調査と比較すると、「エアコン」(22.0%)と「パソコン」(14.7%)がともに5.3ポイント上昇し、全品目のなかで上昇幅が最も大きい。「エアコン」は、在宅時間が増すなか、夏の猛暑が購入増に繋がった。また、「パソコン」は、テレワークやオンライン授業の導入に加え、家族・友人とオンラインでコミュニケーションを図る動きが広がり、購入割合が上昇したようだ。

図表14 過去1年間に購入した耐久消費財(複数回答)





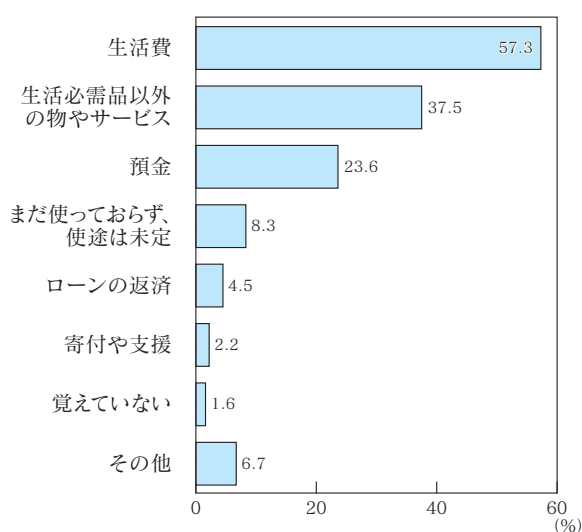
## 5 特別定額給付金の主な使い道

新型コロナウイルス感染症緊急対策の一つである特別定額給付金について、回答者全員が「受け取った」と答えた。

その使い道をみると、回答者全体では、「生活費」とした割合が57.3%と最も高くなった（図表15）。次いで、「生活必需品以外の物やサービス」（37.5%）と「預金」（23.6%）が二桁となった。世帯収入の減少を受け消費に充てた割合が高い一方で、預金を選択した回答者もみられた。

年代別では、「生活費」は、60代（61.2%）で最も高く、最も低い29歳以下の年代（47.4%）

図表15 特別定額給付金の主な使い道（2項目複数回答）



でも5割近くとなった（図表16）。回答者は、年代を問わず、まずは生活費に充てたようだ。

「生活必需品以外の物やサービス」に充てたとする回答者の割合は、60代（43.5%）で最も高く、他の年代では3割台となった。60代は「生活費」の割合も他の年代を上回っており、特別定額給付金を積極的に使用した様子が窺える。

「預金」は、30代（33.7%）と29歳以下の年代（31.6%）で3割を超え、40代以上では年代が上がるにつれて割合は低下した。先行きの見通しが立たないなかで、若年層は将来への備えとして預金しているものと推測される。最も低い回答割合は70歳以上で、14.0%となった。

「まだ使っておらず、用途は未定」とする割合は、29歳以下と70歳以上の年代でともに10.5%となり、他の年代を上回った。一方で、60代が最も低く3.5%となった。

「ローンの返済」は、29歳以下の年代（7.9%）で最も高くなった。

「寄付や支援」は、30代以上の年代で回答があり、70代（7.0%）が他の年代を上回った。

「その他」では、車検の費用、納税、住宅リフォームの補填などといった回答がみられた。

（相沢 陽子）

図表16 年代別の特別定額給付金の主な使い道（2項目複数回答）

（単位：%）

|       | 生活費  | 生活必需品以外の物やサービス | 預金   | まだ使っておらず、用途は未定 | ローンの返済 | 寄付や支援 | 覚えていない | その他 |
|-------|------|----------------|------|----------------|--------|-------|--------|-----|
| 29歳以下 | 47.4 | 35.5           | 31.6 | 10.5           | 7.9    | 0.0   | 0.0    | 2.6 |
| 30代   | 51.8 | 36.1           | 33.7 | 6.0            | 2.4    | 3.6   | 3.6    | 7.2 |
| 40代   | 60.9 | 35.3           | 26.1 | 9.2            | 6.0    | 1.1   | 1.6    | 5.4 |
| 50代   | 60.7 | 37.9           | 19.3 | 9.3            | 5.0    | 1.4   | 1.4    | 9.3 |
| 60代   | 61.2 | 43.5           | 15.3 | 3.5            | 2.4    | 3.5   | 1.2    | 9.4 |
| 70歳以上 | 52.6 | 38.6           | 14.0 | 10.5           | 0.0    | 7.0   | 1.8    | 5.3 |